



お茶シアター

お茶の歴史・お茶ができるまでを見てみよう!

お茶の歴史シアター

お茶の歴史

① 平安時代

わが国のお茶は、平安朝の初期
(約1200年前)、伝教大師(最澄)
や弘法大師(空海)など、唐へ留
学した僧侶たちによって中国
から茶を持ち帰ったのが始ま
りとされています。



② かまくら じだい 鎌倉時代

鎌倉時代に栄西禅師(えいさいぜんじ)(1141～1215年)が中国から茶を伝えると共に「喫茶養生記」をあらわし、「茶は養生の仙薬なり、延齢の妙術なり」と喫茶の効能を宣伝したため、茶への関心が高まりました。

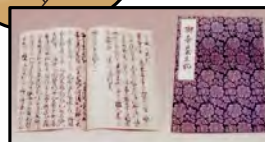
② かまくら じだい 鎌倉時代

栄西禅師 (えいさいぜんじ) 1141～1215

わが国の茶、中興の祖。
臨済宗を宗(中国)から伝えました。抹茶系の製茶法、抹茶式のお茶のたて方をはじめてわが国へもたらしました。さらにわが国最初の茶専門書「喫茶養生記」を著しました。



栄西禅師像
(臨済寺・静岡市)



喫茶養生記

② かまくら じだい 鎌倉時代

静岡県の茶は、駿河国柅沢(静岡県郊外)に生まれた聖一国師(しょういちこくし)(1201～1280年)が、やはり中国から種子をもたらし、出生地に近い足久保にまいいたのが始まりとされます。

② 鎌倉時代

聖一国師 (しょういちこくし) 1202~1280

しょういちこくし とう
 聖一国師は鎌倉時代の高僧で東
 ふくじ きょうと かいざん そう
 福寺(京都)を開山し、宋(中国)か
 きちよう ぶつしよせんよ
 ら帰朝のとき、茶の実と仏書千余
 かん
 巻を持ち帰りました。茶の実
 するがあしくぼ
 郷里に近い駿河足窪(現 静岡市足
 久保)の地に植えたと言えられ、
 そ
 静岡茶の祖と言われています。



聖一国師像
 (臨濟寺・静岡市)



静岡茶発祥の地 足久保の「狐石」(静岡市)

③ 江戸時代

えど じだい
 江戸時代になると、中国から今と同じようなお茶の葉にお湯を
 せんちや
 入れて飲む方法(煎茶)が伝わりました。

また、このころから静岡では足久保のあしくぼ えどじよう けんじよう
 お茶を江戸城へ献上した
 とくがわいえやす ちゃかいよう ひんしつ いかわ ちゃ
 り、徳川家康によってお茶会用の品質のいいお茶が、井川のお茶
 つぼ やしき めいちゃ
 壺屋敷に保存されたりと、静岡茶は銘茶として知られていたよ
 うです。

④ 明治時代

めいじ じだい
 明治時代には、今と同じようなお茶の作り方が完成しました。輸
 しゅつ
 出が増え、生産量が増えてきたことから、お茶を機械で加工する
 技術もさかんに発明されていきます。

めいじ しょき とくがわはんし かわごえにんそく まきのほら
 明治初期の静岡では、徳川藩士や川越人足などにより牧之原の
 だいちゃえん
 大茶園が作られ、茶産業が大きく発展しました。明治末期には、
 すぎやまひこさぶろう しんしゅ
 杉山彦三郎がお茶の新種「やぶきた」を見つけました。

4 明治時代

杉山彦三郎 (すぎやまひこさぶろう) 1857~1941

静岡県安倍郡有度村(現静岡市
駿河区中吉田)に生まれ、我が
国茶品種改良の先駆者です。
「やぶきた」のおこりは、竹やぶ
を開墾した試験園の北側の位
置に原樹があったために名付
けられました。



やぶきたの父
杉山彦三郎



茶の優良品種やぶきた原樹
(静岡市駿河区谷田・県立美術館入り口)

5 現在

静岡県は、生産額・品質はもとより、流通面においてもわが国茶
業の拠点となっています。



おしまい